

武蔵野市の年次財務報告書 平成27年度版 概要

※金額は四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合があります。

I 武蔵野市の財政状況

財務諸表からみた財政状況は以下のとおりです。

・財務内容の健全性

貸借対照表の資産に対する正味財産の比率が91.3%と高い水準を維持しています。負債のうち借入金の残高は172億円であり、収入のうち一般財源446億円の0.39年分に相当し、健全な財務状況です。

⇒【表1】【表2】参照

・施設更新への備え

貸借対照表の資産の基金のうち施設の更新のための基金は308億円です。施設の更新には多額の費用が必要なため、基金の積立を今後も着実に進めます。

⇒【表3】参照

・行政運営の効率性

行政コスト計算書の収支差額は黒字を維持しており（平成27年度は59億円の黒字）、効率的な行政運営がなされています。今後も社会保障費などの増加が見込まれるため、より一層効率的、効果的な財政運営を行う必要があります。

⇒Ⅱ-②行政コスト計算書（一般会計）参照

・連結会計

連結会計の資産は3,650億円、負債は551億円、正味財産は3,099億円です。負債のうち借入金は408億円で、収入のうち一般財源492億円の0.83年分に相当し、いずれも良好な水準です。

⇒【表1】【表2】参照

【表1】貸借対照表 一般会計と連結会計

一般会計	金額(億円)	構成比
総資産	2,971	100.0%
うち固定資産	2,499	84.1%
総負債	260	8.7%
うち借入金	172	5.8%
正味財産	2,711	91.3%

連結会計	金額(億円)	構成比
総資産	3,650	100.0%
うち固定資産	3,108	85.2%
総負債	551	15.1%
うち借入金	408	11.2%
正味財産	3,099	84.9%

【表2】収入に対する借入金残高の比率

(単位:億円)

一般会計	H23	H24	H25	H26	H27
借入金	222	204	193	182	172
収入(一般財源)	400	395	403	421	446
借入金÷収入(%)	0.56	0.52	0.48	0.43	0.39

連結会計	H23	H24	H25	H26	H27
借入金	450	464	481	446	408
収入(一般財源)	446	441	449	467	492
借入金÷収入(%)	1.01	1.05	1.07	0.96	0.83

収入(一般財源)は、一般会計では、市税、地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税及び交通安全対策特別交付金の合計、連結会計ではそれらに水道・下水道使用料を加えたものです。

【表3】基金現在高

(単位:億円)

一般会計	H23	H24	H25	H26	H27
財政調整基金	61	61	61	61	61
特定目的基金	257	276	300	302	323
うち資産の更新・ 新設に備えた基金	234	255	283	289	308
合計	318	337	361	363	384
連結会計合計	339	357	382	380	414

Ⅱ-① 貸借対照表（一般会計）

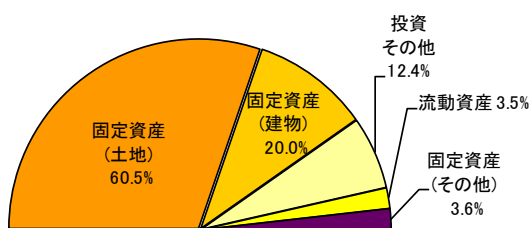
市の保有する資産、負債及びその差額である正味財産を示したものです。資産とその財源を一覧することができます。固定資産は、公有財産台帳及び備品台帳で残高を確認し、個別資産の取得価額を積み上げる方法で集計しました。

- ① 本市は、計画的な整備により都市基盤が早期に完成しました。また、市民サービスの提供と地域の活動の拠点となる公共施設の整備も着実に進めてきました。これら固定資産のほか、現金、基金などを含めた**総資産は2,971億円**になります。
- ② 資産形成は、市税などの自主財源を中心にして、市債なども有効に活用しながら進めてきました。このため、**正味財産比率は91.3%と高い水準**にあります。これは、将来世代に負担を先送りすることなく資産形成を進めてきたことを示します。
- ③ 平成27年度末の**基金残高は384億円**です。このうち資産の更新や新設に備えた基金の残高は308億円になります。また、資産の老朽化度合いを示す平成27年度末の**減価償却累計額は約792億円**です。将来の更新費用を次の世代に先送りしないため、今後も計画的な基金の積み立てが必要です。
- ④ 市債とは、公共施設の建設などのために行う長期の借入金のことです。建設時点の市民だけでなく、その施設を利用する次の世代の市民も費用負担することで、世代間の公平性を保つ方法として位置づけられています。平成27年度末の**市債残高は172億円**です。

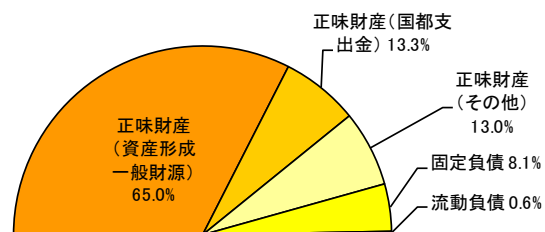
【表4】貸借対照表

(単位：億円、市民1人あたり：万円)

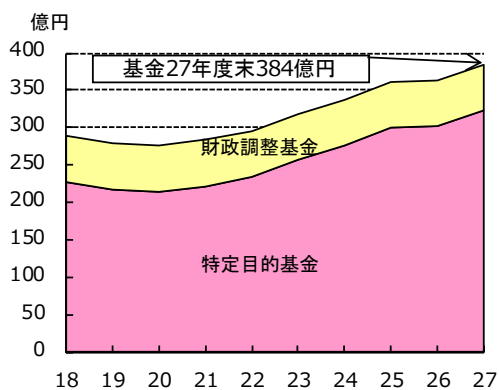
貸借対照表	H26	H27	前年比増減	市民一人あたり	説明
総資産	2,904	2,971	67	207	現金、土地、建物、備品、基金ほか
総負債	268	260	△8	18	将来世代の負担する負債
正味財産	2,636	2,711	75	189	これまでの世代が負担した正味財産
正味財産比率 (正味財産÷総資産)%	90.8	91.3	0.5ポイント	-	比率が高い＝将来世代への先送りが少ない



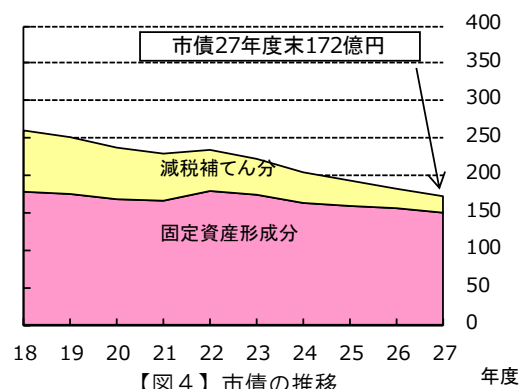
【図1】資産の構成比



【図2】負債・正味財産の構成比



【図3】基金の推移



【図4】市債の推移

Ⅱ-② 行政コスト計算書（一般会計）

発生主義会計の考え方に基づいて収入と費用とを示したもので、民間企業の損益計算書にあたります。

※ 発生主義 … 経済的事実の発生を基準とした会計処理の方法で、現金支出を伴わないコストを把握できる。

- ① 平成 27 年度は行政サービスコスト 542 億円に対し、収入は 601 億円で、**収支差額は 59 億円の黒字**となりました。
- ② 今期は転入者の増加や企業収益の改善により市税が増加しましたが、障害者自立支援給付などの扶助費の経常的な支出は引き続き増えています。健全な財政を維持していくためには、より一層効率的・効果的な財政運営を行っていく必要があります。

【表 5】行政コスト計算書

(単位：億円、市民 1 人あたり：万円)

行政コスト計算書	H23	H24	H25	H26	H27	過去 5 年 平均	市民 1 人 あたり
収入	533	525	544	570	601	555	42
うち市税	372	369	375	387	398	380	28
支出	497	502	499	527	542	513	38
収支差額	36	23	45	43	59	42	4

Ⅱ-③ キャッシュ・フロー計算書（一般会計）

現金収支の状況を示すもので一般会計の歳入歳出決算の差引残額と一致します。収支を行政サービス、資産形成、財務の 3 つの活動に分けることで、資金配分のバランスを把握できます。

- ① 本市は、これまで健全な財政運営を維持しながら、事務事業の実施、都市基盤の維持、公共施設の充実を進めてきました。キャッシュ・フロー計算書では、行政サービス収支と資産形成収支の合計である**フリー・キャッシュ・フローがプラス**となっています。これは、行政サービス収支の黒字の範囲内で資産形成を進めたことを示しています。平成 27 年度は、フリー・キャッシュ・フローが昨年度に比べ 11 億円ほど減少しましたが 28 億円の黒字となりました。
- ② 計画的な市債の返済を進めるとともに、今後の公共施設や学校施設などの更新に備えて基金の積立を行った結果、**財務活動収支は 39 億円の赤字**となりました。今後も扶助費などの経常的な支出がさらに増えることが予想されます。フリー・キャッシュ・フローが黒字の時に、財務活動支出を積極的に行っていく必要があります。歳計現金は 29 億円を維持しておりバランスのとれた資源配分といえます。

【表 6】キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円、市民 1 人あたり：万円)

キャッシュ・フロー計算書	H23	H24	H25	H26	H27	過去 5 年 平均	市民 1 人 あたり
収支差額 (A+B+C)	5	△ 1	△ 5	15	△ 11	1	△ 1
行政サービス収支 (A)	69	51	74	79	96	74	7
資産形成収支 (B)	△ 28	△ 17	△ 44	△ 40	△ 68	△ 39	△ 5
財務活動収支 (C)	△ 36	△ 35	△ 35	△ 24	△ 39	△ 34	△ 3
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	41	34	30	39	28	34	2
歳計現金 (形式収支)	31	30	25	40	29	31	2

※ フリー・キャッシュ・フローとは、行政サービスに要した現金収支と資産形成（建物や道路の建設費）に要した現金収支を合計したもので、黒字の場合、この現金を財務活動（借入金の返済・基金の積立）に充当しています。

Ⅲ 連結財務諸表

一般会計、特別会計、公営企業会計及び市が出資・出えんなどを行い、密接な関連を有する財政援助出資団体（15 団体）が連結対象です。

- ① 総資産 3,650 億円に対して、負債を除いた正味財産は 3,099 億円で、**一般会計と同様に高い正味財産比率を維持**しています。
- ② 総負債 551 億円のうち借入金は 408 億円あります。主なものは、一般会計 172 億円、武蔵野市土地開発公社 82 億円、下水道事業会計 81 億円などです。平成 27 年度は、一般会計が 10 億円減少、武蔵野市土地開発公社で 23 億円減少があり、連結会計全体で借入金は 38 億円減少しました。
- ③ 行政コスト計算書収支は、行政サービスの支出が 891 億円に対し、収入は 928 億円で収支差額 **37 億円の黒字**となりました。前年度と比較すると、24 億円の増加となりました。団体別にみると収支差額がマイナスとなっている団体もありますが、事業収入、補助金、委託料の減少や、減価償却費・退職給与引当金繰入額の増加によるものです。団体自ら収支改善を努力するとともに、経営改善を進めるよう指導していきます。
- ④ キャッシュ・フロー計算書収支は、財務活動収支の赤字が増え**全体の収支は△19 億円**となり、68 億円の歳計現金を次年度に繰り越しました。
- ⑤ 一般会計と特別会計の繰出金及び繰入金、市から財政援助出資団体への補助金・事業委託料などの支出は、武蔵野市の内部取引ですので相殺しています。一般会計から各団体（会計）に対する支出額は、特別会計へ 51 億円、公営企業会計へ 2 億円、財政援助出資団体へ 92 億円、**合計で 145 億円**（前年度比 1 億円減）となりました。

【表 7】 連結財務諸表

（単位：億円、市民 1 人あたり：万円）

貸借対照表	H23	H24	H25	H26	H27	前年比増減	市民 1 人あたり
総資産	3,455	3,488	3,567	3,614	3,650	36	254
総負債	594	589	600	596	551	△ 45	38
うち借入金	450	464	481	446	408	△ 38	28
正味財産	2,861	2,899	2,967	3,018	3,099	81	216
正味財産比率 (正味財産÷総資産)%	82.8	83.1	83.2	83.5	84.9	1.4 割増	6
行政コスト計算書	H23	H24	H25	H26	H27	過去 5 年 平均	市民 1 人 あたり
収入	809	816	873	871	928	859	65
支出	788	806	863	858	891	841	62
収支差額	21	10	10	13	37	18	3
キャッシュ・フロー計算書	H23	H24	H25	H26	H27	過去 5 年 平均	市民 1 人 あたり
収支差額 (A+B+C)	3	2	△ 8	23	△ 19	0	△ 1
行政サービス収支 (A)	60	46	46	100	110	72	8
資産形成収支 (B)	△ 40	△ 28	△ 47	△ 46	△ 57	△ 44	△ 4
財務活動収支 (C)	△ 17	△ 16	△ 7	△ 31	△ 72	△ 29	△ 5
歳計現金 (形式収支)	69	72	64	87	68	72	5